

ThorensTD124 の導入(4)

ートランスの検討(2)ー

1. 始めに

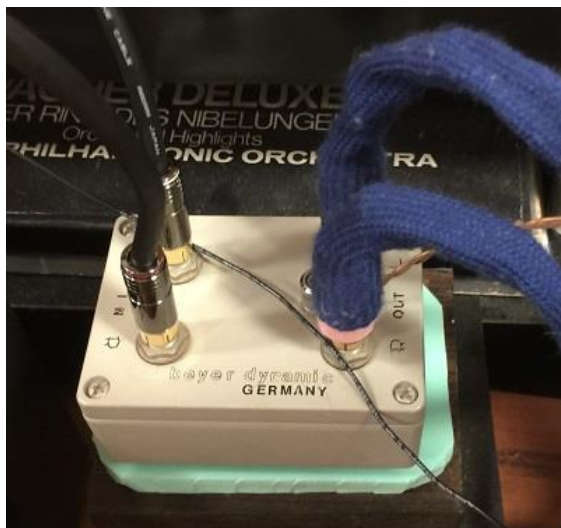
前報(3)に引き続いてトランスとの組み合わせを試聴していきます。

2. ThorensTD124 の試聴方法

今回も、カートリッジは前報(2)の SPU Synergy のままとし、トランスを替えて若松通商の Maraz7 タイプのプリ経由で聴いて行きます。

トランスは、下記を使用します。

Byer マイクトランス



しなの音蔵オリジナルトランス



My Sonic Stage 1030



試聴音源は、前報(3)と同様、聴きなれた下記を使用しました。

LONDON SLC 1138

ファリャ 三角帽子

アンセルメ指揮スイスロマン

ARCHIV(日本ポリドール) 28MA 0020

J.S.Bach チェンバロ協奏曲

トレヴァー・ピノック指揮イングリッシュコンサート

harmonia mundi(Deutche) KUX-3248-H

ミトマニア

ベーレン・ゲスリン

キングレコード SKA-104

愛と自然の歌

倍賞千恵子

3. ThorensTD124 の試聴方結果

Byer のマイクトランスでは、三角帽子は、切れ込みはさほどよくはありませんが、ウオームな太い音がします。

チェンバロ協奏曲は、さほど切れ込みはよくはありませんが、一定程度の解像度は確保されており、落ち着いた聴きやすい音がします。

ミトマニアは、ボーカルは柔らかく落ち着いた表現で、バックの古楽器の質感も確保されています。

倍賞千恵子は、やんわりと中庸でウオームなボーカルです。

なお、この Byer のマイクトランスは、ゲインが高く使いやすいものです。

次のしなの音蔵オリジナルトランスですが、High と Low のインピーダンス受けが

ありますので、Low の入力とします。この重量級のトランスに替えますと、三角帽子は、音の立ち上がりと抜けがよく、迫力のある再生ぶりです。

チェンバロ協奏曲は、抜けがよく、勢いのあるアンサンブルが聴けます。

ミトマニアは、ボーカルもバックの古楽器も抜けのよい切れのよい音です。

倍賞千恵子は、歌唱に力強さがありながら、細かい表情も再現できています。

このしなの音蔵オリジナルトランスは、SPU Synergy との組み合わせでは、見た目どおりの豪快で力強い音が身上とっていましたが、意外に細かい表現も可能なことが分りました。

さらにトランスを My Sonic Stage 1030 に替えますと、三角帽子は、抜けの良さや立ち上がりの良さと細かいニュアンスの表現が両立しています。

チェンバロ協奏曲は、抜けがよく、細かいニュアンスの表現にアンサンブルが聴けます。

ミトマニアは、ボーカルの抜けがよく、バックの古楽器の解像度も優れています。

倍賞千恵子は、歌唱の細かいニュアンスが聴き取れ、バックとのバランスも良好です。

なお、このトランスは、float と ground の切り替え SW がありますので、切り替えてみましたが、顕著な違いは聴き取れませんでした。

4. まとめ

穏やかな Byer のマイクトランス、迫力のしなの音蔵オリジナルトランス、細かいニュアンスの My Sonic Stage 1030 と三者三様の表現が聴き取れました。

以上